

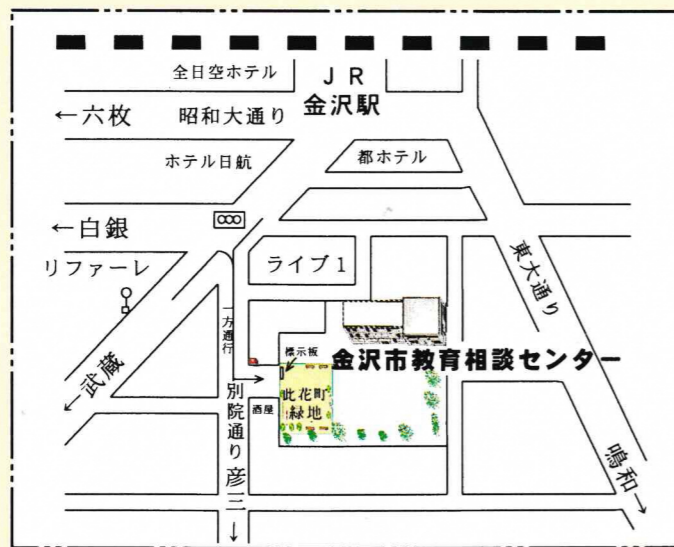
学校での取り組みとともに

外部との連携を視野に入れ

ポイント 専門機関への相談も考えてみましょう

相談には**金沢市教育相談センター**をご利用下さい

- ・センターへ来所していただき本人・保護者との面接相談を行います
- ・学校へ出向き、先生方と援助についてともに考えます
- ・必要に応じて医療・心理の専門機関を紹介します



金沢市教育相談センター

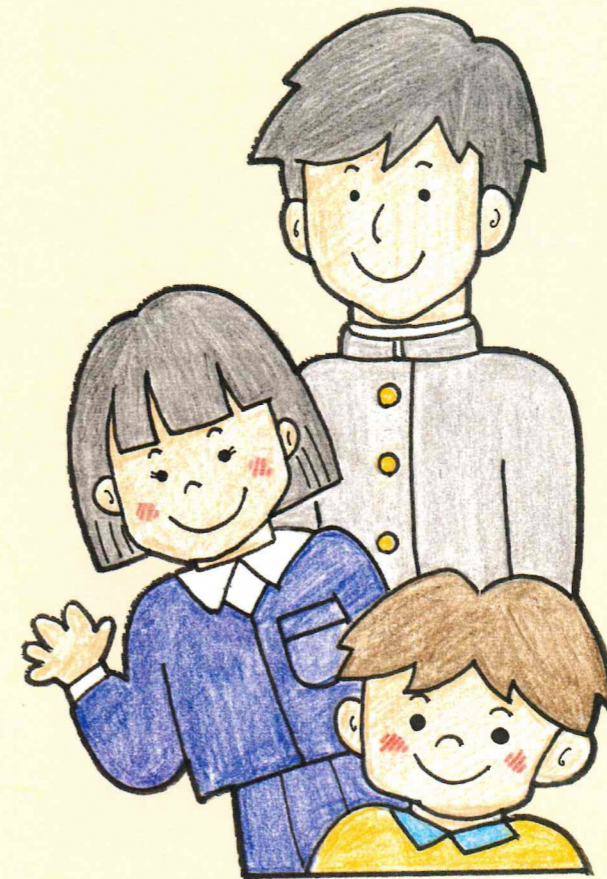
〒920-0852

金沢市此花町 2-7

TEL 076(224)0874 FAX 076(263)7830

e-mail kyouiku-so@city.kanazawa.ishikawa.jp

学習上のつまずきを示す児童生徒への援助のために



金沢市教育相談センター



☞ このような児童生徒のつまずきをどのように理解すればよいのでしょうか

小学校1年生のAさん

? 心配なこと

教科の学習では理解力につまずきは見あたりません。しかし、話をする時には言いたいことを相手にうまく伝えにくいようです。例えば「ストローでジュースを飲みたい」と言おうとしても「えーとね、あのね、ほら、あの、こうやってね…」と、言葉がなかなか出てこず、分かりにくく回りくどい表現になってしまいます。そのため、友だちと休み時間にうまくかかわれず、つい手が出てしまうことがあります。

👉 つまずきの把握（行動観察・心理検査と評価）

Aさんの主なつまずきは言葉を思い出したり類推したりする力の弱さにあるようです。例えば、「クジラは大きい」という文を聞いた後で「アリは…」の次に続く言葉を考えるような課題では困難が見られました。その上、Aさんは早く話そうと焦ってしまうので、よけいにうまく表現できなくなるようです。

💖 指導・援助の内容

- ①本人が話しやすい雰囲気をつくります。
 - ・本人のペースでゆっくり話すことを受け入れ、本人なりに努力していることを認め、ほめてあげるようにします。
 - ・「友だちの話は最後まで聞きましょう」と学級の子どもたちに伝えます。
- ②つまずきに対応した学習を進めます。
 - ・仲間あつめなど、言葉を思い浮かべる練習をします。
例：文房具の名前を言って下さい→「えんぴつ、けしゴム、…」
 - ・物語や実際の出来事についてその順序に従い短い文で話す練習をします。
例：「①学校のプールへ行きました ②服を脱ぎました ③水着を着ました ④じゅんぴ体操をしました ⑤シャワーを浴びました ⑥プールの中に入りました…」



中学校2年生のBさん

? 心配なこと

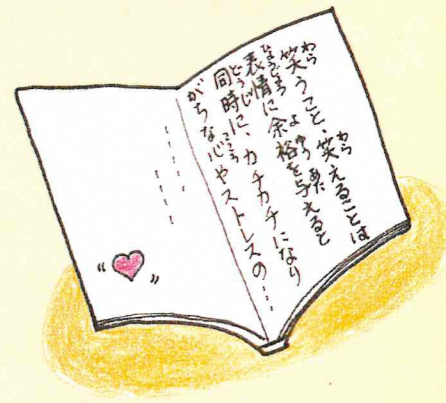
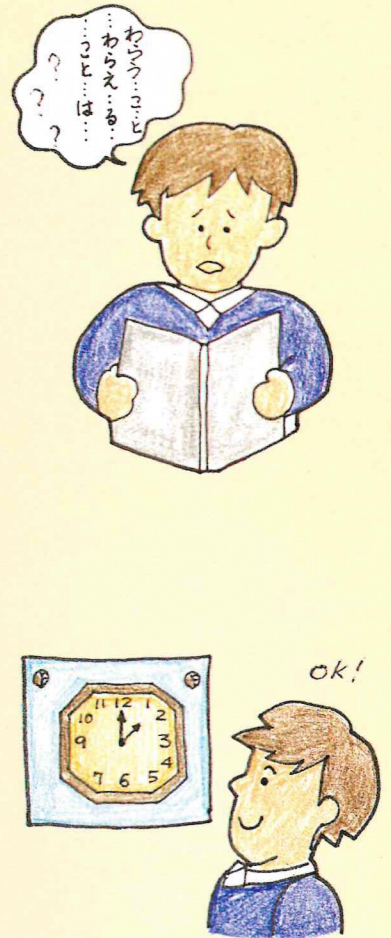
読むことが不得意で、音読では一文字ずつの拾い読みになったり、よくつかえたりします。また、黙読でも書かれている内容を理解することが難しく、どの教科でも理解力不足が目立ちます。

👉 つまずきの把握（行動観察・心理検査と評価）

見たものを理解し記憶する力に困難があり、細かい部分への注意力も弱いようです。そのために、絵の中の欠けた部分を指摘する課題で困難が見られます。例えば、文字盤の中の8の数字がない時計の絵を見ても、おかしいところがあるとは気づきません。また、読むことに対して本人が苦手意識があり、「どうせぼくはできないんだ」というようなあきらめの気持ちを持っています。しかし、読むことに比べ聞いたことを理解する力は比較的良好で、友だち関係でも特に困っていることはありません。

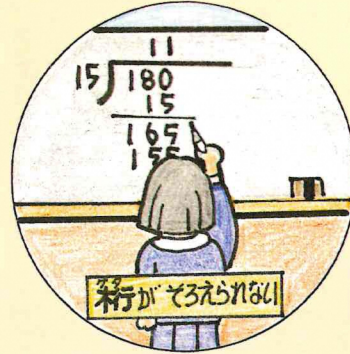
💖 指導・援助の内容

- ①得意なことで本人が認められるようにします。
 - ・話し合い活動などに本人の活躍の場を設けます。
 - ・不得意なことだけに目を向けるのではなく、得意な面を伸ばすように本人を励まします。
- ②得意なことで不得意なことを補うようにします。
 - ・授業では、先生や友だちが音読するのを聞いて理解するようにします。また、図表や写真など視覚的な手がかりを準備します。
- ③不得意な学習も無理がないように進めます。
 - ・みんなの前で読ませる場合には、予め読むところを知らせてあげ、事前に練習の時間をとれるようにします。
 - ・個別に時間をとって読む練習をします。
文が読めないなら単語を読む練習から始めます。
漢字が読めない場合には、先ず、読みがなをつけた文を読むことから始め、別に漢字の読みの練習をします。漢字の意味や成り立ちなどを学習に活かす工夫も大切です。



学習上のつまずきを示す児童生徒への援助の進め方

「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」などの能力の習得と使用に困難があり、学習上のつまずきを示している児童生徒への援助の進め方の留意点について考えてみましょう。



効果的な援助を進めるために

まず教室の中では

ポイント 学習・行動の様子をよく観察してみましょう

● 学習

- ・ どんなどころにつまずくのか
- ・ 一貫したつまずきなのか
- ・ 繰り返せばできるのかどうか
- ・ 理解したことは定着するのかどうか

● 行動

- ・ 気になる行動はいつ・どこで・どんなふうになるのか
- ・ 何が好きなのか（得意なのか）
- ・ 何が嫌いなのか（苦手なのか）

ポイント 指導・援助を工夫してみましょう

● 学習指導

- ・ 課題をかえてみる
興味関心に沿った教材を用意する
- ・ 課題をスモールステップにしてみる
- ・ 課題の量を減らしてみる
- ・ 課題の提示方法をかえてみる

● 心のケア

- ・ 本人の気持ちを聞いてみる
- ・ 課題解決の方法と一緒に考える
- ・ 望ましいふるまい方を話し合う
- ・ 約束事は納得して決める

ポイント 本人のやる気を育てましょう・温かな学級づくりに心がけましょう

● 本人へ

- ・ 「できる」経験を通して成就感をもたせるとともに、見通しがもてるような活動を用意する
- ・ 結果ではなく、活動への意欲や経過の中での努力をほめる

● 学級集団へ

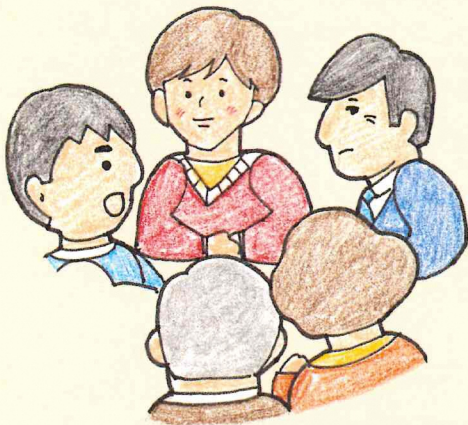
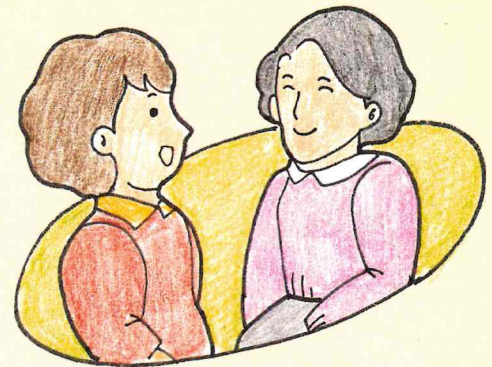
- ・ 同じ学級の仲間としての一体感を味わえるような活動を用意する
- ・ 不得意への配慮は特別扱い（えこひいき）ではないことを伝える

教室の中での取り組みだけではうまくいかないようなら

担任一人で問題を抱え込まず

ポイント 保護者と連携を取りましょう

- 保護者から聞かせてもらう
 - ・ 家庭での様子を聞かせてもらう
 - ・ 乳幼児期からこれまでの育ちの様子を伝えてもらう
 - ・ 家庭の養育方針を知らせてもらう
- 保護者とともに考える
 - ・ 家庭と学校の役割分担を明確にする
 - ・ 学校での指導について理解してもらう
 - ・ 家庭でも必要な配慮をお願いする
- 連携を継続する



ポイント 学校全体で取り組みましょう

- つまずきの状態を明らかにする
 - ・ 同学年の先生方と話し合ってみる
 - ・ ベテランの先生に尋ねてみる
 - ・ 校内研修会で取り上げる
- 非常に応じて協力体制を作る
 - ・ TTによる指導など指導形態を工夫する
 - ・ 教職員が一貫した方針で子どもに接するようにする

二次的なつまずきが心配です

- 学習が理解できない・ルールが分からない・人間関係がうまくいかないなどのきっかけから「不登校」に至るケースもあります。「しぐさ」「姿勢」「表情」「声の調子」等の細かなサインを見逃さず、子どもの「心のありよう」に注意し、早い段階で本人の心の不調に対応してあげることが重要です。
- 「怠けているだけ」という思いこみが「わがままな子」という周りの一方的な見方につながり、そのことが「いじめ」を生むケースもあります。互いの存在を認めあえるような学級の雰囲気作りが望まれます。

